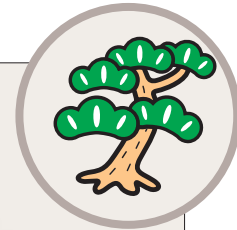


全国巡り



東北支所

東北地域の冬の気象条件は、奥羽山脈を境にして東西で異なり、西側では多雪、東側では寒冷・乾燥と、対照的な特徴を示しています。森林面積の約四〇％を人工林が占めていますが、世界遺産である白神山地に代表されるブナなどの落葉広葉樹林や、材質の優れたヒバなどの針葉樹天然林もすっかり残されています。東北支所は岩手県盛岡市にあり、東北六県、森林管理局、大学等と連携・協力しながら、地域に密接に関わる研究を積極的に推進しています。

とくに我が国最大の深刻な森林病害であるマツ材線虫病の分布拡大最前線が北東北地域であることから（図）、各県とも連携して、材線虫病の分布変遷についての最新情報を収集し、問題となっている地域で被害地・被害木をピンポイントで迅速に見出せる簡易ツールを開発するなど、今後の分布拡大を阻止するための方策を進めています。

そのほか、温暖化防止に果たす森林の役割を調べるために、ブナ林における二酸化炭素収支の長期観測を行っており（写真）、スギやカラマツ人工林をヒバや広葉樹天然林へと誘導する技術などの研究にも積極的に取り組んでいます。

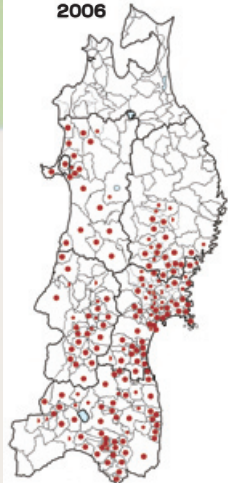


図 東北地域におけるマツ材線虫病被害発生地域の分布（赤丸、2006年）



写真 ブナ林におけるCO₂収支の観測タワー（岩手県八幡平市安比）